

F Aコン標準化進む

特性生かした利用検討

スタートした。

これまでに福井県発注の九頭竜川流域下水道事業施設のほか、国土交通省発注工事で、橋梁下部工やボックスカルバートに採用されるなど実績を重ねている。

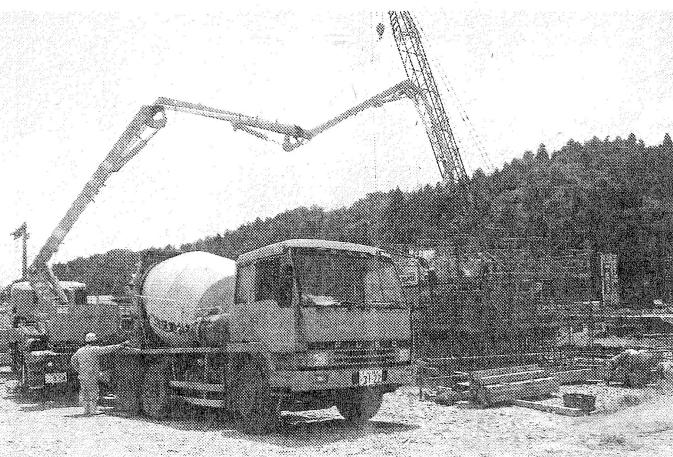
コンクリートでのF A（ライアッシュ）の有効活用が進んでいる。大阪広域生コンクリート協同組合は日本建築学会近畿支部と共にF Aの活用を検討している。同協組では

組合員三十数社がF Aコンクリートを標準化して出荷できる体制を整えている。建築学会は新設、「適用範囲」を広い技術資料の作成を目指して、調査と会は同協組と関電パワーテックから研究委

託を受けて、5月に「F Aコンクリートの実用化が進んでいる。福井宇部生コンクリートは、F Aと高炉セメントを使用したコンクリートを「福井宇部F Bコン」の名

賀火力発電所で発生するF Aを混和材として、セメント分の20%を置換し、セメント使用量を減らしている。これにより、水和熱を抑制してひび割れ発生リスクを抑制することができる。

FBコンの打設の様子



の製造にスラッジ水やフライアッシュなどリサイクル材料を使用することによって表示が可能となる。すなわち、環境ラベルを表示する」とは、生コン工場がリサイクル材の使用を公式に表明することになるため、まず工事発注や設計の段階から、そうしたりリサイクル材使用の姿勢を理解して、積極的に使用する措置が講じられてこそ、幅広い普及が可能になる。

FBコンは北陸地区の生コン会社として初めてNETTISに登録（登録No.KK-1100017-A）された。

7月には環境ラベル（メビウスループマーク）を表示した出荷を

富山、石川、福井の北陸3県では「北陸地方におけるコンクリートの有効利用促進検討会」（鳥居和之委員長＝金沢大学教授）がFAの地産地消とアルカリ骨材反応抑制に有効なFAコンクリートの標準化を目指して活動している。石川、富山ではFAコンクリートの試験施工を実施。高炉セメントコンクリートとの比較で温度ひび割れ抑制の点で優位性のある材料であることを確認している。石川県の志賀原発の防潮堤工事に採用されたほか、富山県では県内全域で試験施工が計画